

センセイコール(18)

22) 椅子が高い・低い

椅子の座面の下に付いているレバーをいじってしまうと、低学年では体重で抑えることができないので座面が上がってしまいます。上がる力はかなり強いので、座面を手で押さえたままで座面が上がって、手が机との間に挟まってしまうと、子どもの力では抜くことができません。たいへん危険なので、レバー操作をしないように気をつけてください。

低い、という訴えは、前時で使った高さが自分の体に合っていない場合です。

これだけでは、「情報教育」とは関係のないことですが、情報を扱う、という点から椅子の高さを訴える時の、子どもたちの表現の仕方を見ていると、もっと適切に言えるようになってほしいと思うのです。

「せんせー！ いすー！」

「たかーい！」

こういったセンセイコールに出会ったとき、特に椅子が上がってしまっていると、どういう状況で呼ばれたのか一目でわかります。ここで、「あぁ、そうかそうか。」と言って、すぐ対応(椅子の高さを低く)してしまうと、まるで先生が「お世話係」のようになってしまうのではないのでしょうか。

まず、状況をきちんと自分の言葉で説明すること、そして、「低くしてください」と目上の人をお願いする言葉を使ってほしいと思います。

触ってはいけない、と指示があつてのことならば、「ごめんなさい」「もうしません」も必要です。

パソコン操作で困ったときのセンセイコールと同じで、状況がすぐにわかったとしても、なぜそうなったのか、どうしたら解決するのか、トラブルにならないためにはどうすべきだったのか、子ども自身がわからなくては、次にまた同じ状況で先生の出番になります。

言いたいことをきちんと伝えるように表現する、人と人との適切なコミュニケーションも、こういうちょっとしたことから学んでいくことができます。

ご参考までに、『言語力育成協力者会議』(文科省)を参照してください

『言語力の育成等に関する主な意見(概要)』(言語力育成協力者会議 第1回配付資料)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryu/06061520/006.htm